

第6学年1組 総合的な学習の時間学習指導案

令和4年11月15日（火）
場所 6年1組 教室
児童数 35人
指導者 教諭 小淵 昂希

1 単元名 「自分を見つめて ～2023年発 20XX年の自分からの招待状～」

2 単元の目標

自分が想像している「未来の自分」の姿を実現するために、12年間の自分の成長を振り返り、自分の将来への道筋を立てる活動を通して、「今の自分」の姿を見つめ直すとともに、「未来の自分」の姿の実現に向けて、挑戦したいことやさらに力を付けたいことなどについて考えたり、これからの自らの生活や行動に生かそうとしたりする。

3 児童の実態

小学校の卒業まで残り5か月となり、中学校への進学を目の当たりにするような時期ではあるものの、本学級において、卒業後の進路についての話題を聞くことは少なく、自分の将来に向けて見通しをもって生活をしている児童は多くないように見受けられる。

これまでの総合的な学習の時間の取組状況について尋ねた意識調査（図1）では、「肯定的」と捉えている児童が93.3%であった。また、「自分で課題を決めて、解決に向けて取り組んでいる」（図2）と答えた児童が96.7%であり、多くの児童が問題解決の意識をもって学習に取り組んでいることが分かった。さらに、「課題に沿って追究することが楽しいか」（図3）という問いに対して、4月の意識調査で51.4%であった数値が、10月の意識調査では、93.3%に向上していた。

1学期に実施した「上尾市住みよいまちプロジェクト Part4 ～防災2022～」で、上尾市の防災に対する課題について、各グループで情報を整理し、話し合いを進めることができた経験が総合的な学習の時間を肯定的に受け止めている結果に繋がっていると考えられる。しかしながら、集めた情報を整理・分析して発表したり、自分の言葉で表現したりすることについては、未だに苦手意識をもっている児童が少なくないため、本単元の活動を通じて、それらの苦手意識を少しでも克服し、自己の生き方について自信をもって表現することで、自分の将来に向けた見通しをもって生活できるようになると考えている。

図1

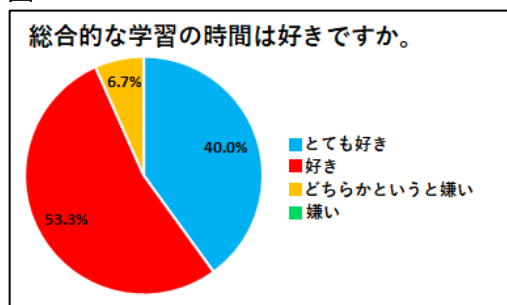


図2

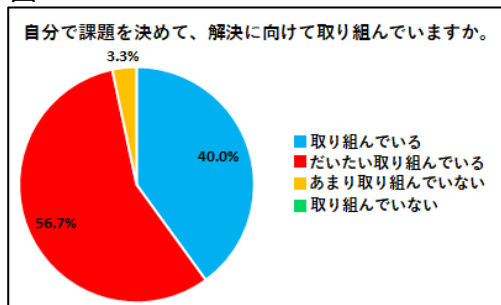
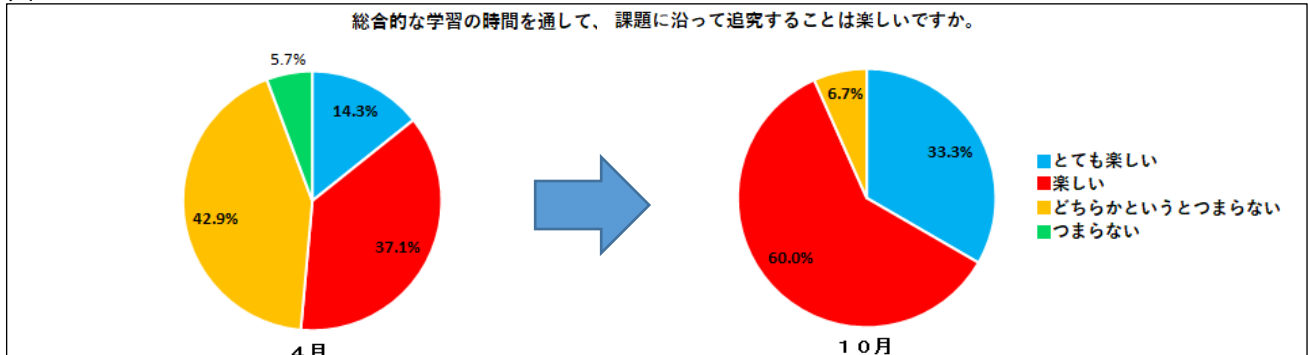


図3



4 教材について

本単元は、中学校進学に対しての希望や自己の生き方への自信をもち、胸を張って卒業してほしいという教員の願いの下、今後も予測困難な時代を生き抜き子供たちが、それぞれが思い描く幸せを実現するために、「未来の自分」を想像する学習を行うことが効果的であると考え、設定した。

単元を通して、児童が主体的に学習に取り組める手立てとして、思考ツールを活用して一人一人の考えを可視化し、他者と考えを共有することで、物事を多面的に捉えたり、考えの違いを認め合ったりすることができ、今後の生活について見通しをもてるようにしていく。また、想像した「未来の自分」の姿をより明確化するために、未来逆算思考を取り入れる。

まず、単元の導入では、ハーバード大学の心理学者のダニエル・ギルバート博士の「TED (Technology Entertainment Design の略称) トーク」を見せ、「未来の自分」を創造することの重要性に気付かせる。次に、学習過程の中で、「今の自分」の成長を客観視させることで、現在の自分自身を肯定的に捉えられるようにする。「未来の自分」を創造する際には、具体的にどのような自分になっていきたいかを考えさせたい。

単元の中盤では、「将来の日本」で予想される社会の変化を考えさせることで「未来の自分」に必要な力を明らかにしていきたい。特に、講話や体験活動を通して、夢を実現させた先人たちがどのように考えて行動したかという生き方や考え方について学び、これからの社会でも変わらない不易な部分を捉えられるようにする。具体的には、子供たちの関心の高いサッカー漫画を通して、主人公の葛藤部分に触れて、実際にプロサッカーチームのコーチにインタビューを行ったり、食品会社から食品の宣伝方法やアイディアの出し方などを教わったりする学習を行う。その後、本校の卒業生に、中学校の生活の様子や残りの小学校生活で取り組んでおくことよいことなどを聞き、小学校卒業までの見通しをもてるようにする。

単元の終盤では、「未来の自分」が、「今の自分」に向けて「どのような生活をしているのか」を伝える未来からの招待状を書く。未来を想像する中で、これから高めていきたい力や身に付けていきたい力など、「今の自分」がすべきことについて考えさせ、「これからの自分」の生活や行動に生かしていきたい。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①身近な人や地域の人にインタビューしたり、インターネットで検索したりして得た情報を基に、図や文章でまとめる方法がわかっている。 ②自分自身の未来には様々な能力が求められていることに気付いている。 ③自分自身の成長を実感するとともに興味関心のある事柄についての理解の深まりは、探究的な学習を進めてきたことの成果であると気付いている。	①6年間の成長すごろくの作成や調査活動を通して、見通しをもちながら課題を決め、解決に向けて自分にできることを考えている。 ②興味関心のある事柄について知るために得た情報を、関連付けたり比較したりしながら情報を選択して収集している。 ③20XX年からの招待状を完成させるために、収集した情報を観点ごとに関連付けたり、比較したりしながら「今の自分」への招待状の具体的な内容や自己実現の方法を整理・分析している。 ④20XX年からの招待状づくりに向けて、これまでの活動を振り返り、これまでの学校生活や自分自身の成長を捉えながら、自分自身の考えについて、スライドを使ってわかりやすく表現している。	①6年間の成長すごろくの作成や未来の日本調べについて進んで関わり、20XX年からの招待状を完成するという目標に向けて、計画を立てようとしている。 ②ゲストティーチャーとの関わりや他の児童との協働的な学びを通して、異なる意見や他者の考えを受け入れながら、探究の活動に取り組もうとしている。 ③20XX年からの招待状を作成する場面において、これまで関わってきた方の思いにふれながら、自己の生き方を表現しようとしている。

6 単元の指導と評価の計画（33時間扱い）

※「課題」：課題の設定 「情報」：情報の収集 「整理」：整理・分析 「表現」：まとめ・表現

過程	○学習活動 ・児童の思考	・指導上の留意点 評価 （評価方法） △思考ツールの活用
課題	○オリエンテーションをする。（2） ○課題設定をする。 自分を見つめて ～2023年発 20XX年の自分からの招待状～ ・未来の自分はどうなっているのかな。 ・どんな世の中になっているのかな。	・総合的な学習の時間のねらいや進め方について確認し、学習に見通しをもつことができるようにする。 ・未知の世界の20XX年がどのようなになっているか想像し、一人一人に未来があることを意識させるとともに、予測できないこともあることに気付けるようにする。 ・なりたい自分像は、未来を想像することから始まることを認識させ、「未来の自分」に関心をもてるようにする。
課題	課題① 半年間の成長を見つめよう！	
情報	○10月までの自分の成長を確かめる（1） ・運動会の表現を一生懸命頑張ったよ。 ・1年生にやさしく教えることが出来るようになったよ。	・6年生として頑張ってきたことやできるようになったこと、挑戦していることなど肯定的に捉えられる事柄を集めるよう助言する。
整理	○自分の成長を伝え合う。（1） ・時間を守って行動できるようになったよ。 ・一生懸命算数を勉強したから、テストで100点が取れるようになったよ。	△ウェビングマップ ・お互いの成長を認め合うことで、子供たちの自己肯定感を高めるとともに、他者から見た自身の成長を知ることができるようにする。
整理表現	○35人の成長をまとめる。（2） ・半年でたくさんのことができるようになったよ。 ・まだまだできることを増やしたいな。	・全員分の成長をまとめることで、個人の学習だけではなく、全員でお互いを認め合い、よさを伸ばしていく学習であることを意識できるようにする。 思・判・表①（活動の様子・タブレット）
課題	課題② 6年間の成長を見つめよう！	
情報	○6年間の自分の成長を確かめる。（2） ・かけ算九九を覚えるが大変だったけれど、ちゃんと覚えられたよ。 ・コロナ禍の中でも、みんなと頑張ったから思い出を作れたよ。	・6年間の小学校生活では大変だったことも、今の自分を創っていることに着目し、自分自身の成長を肯定的に受け止められるようにする。
整理表現	○6年間の成長をすごろくにして表す。（2） ・1年生で頑張ったことは何かな。 ・大変だったこともあったよね。 ・ちゃんと6年間で成長しているね。	△ウェビングマップ ・頑張ったことや成長したこと、大変だったことを共有できるよう互いのすごろくを体験する中で、思いや経験を分かち合い、次時の学習につなげる。 態①（活動の様子・タブレット）

課題 情報 整理 整理 表現	課題③ 20XX年の未来を想像しよう！ ○未来の日本はどうなっているか想像する。 (1) ・デジタル化がもっと進むと思うよ。 ・仕事場に行かなくても仕事ができるね。 ・外国への行き来がもっと簡単になるね。 ○未来の日本はどうなっているかまとめる。 (3) ・デジタル化がもっと進むと、空中に画面が出るようになるよ。 ・車は水や電気で走るようになるよ。 ・今ある仕事がAIに取られてなくなってしまいうらしいよ。 ○未来では自分にどんな力が必要になるか考える。(2) ・デジタル化に合わせていく力が必要だね。 ・外国の人と一緒に仕事をするのがもっと増えるから、外国語を使えるようになる必要があるね。 ・人と関わることは、いつになっても変わらないから、コミュニケーション力が大切だね。	・未来の日本はどのようになっているか調べることで、どのような未来になるか具体的に認識することができるようにする。 △クラゲチャート ・お互いの調べたことを共有することで、どのような未来が待っているのか想像できるようにする。 ・見通しのある未来と見通しのない未来があることに気付くことができるようにする。 知・技① (活動の様子・タブレット) ・見通しのある未来で求められる力を考えたり、見通しのない未来で求められる力を予想したりすることで、未来に生きていくことの見通しをもてるようにする。 △キャンディーチャート 思・判・表② (タブレット・活動の様子)
課題 整理 表現	課題④ 未来の自分はどんな自分？ なりたい自分を創造しよう！ ○20XX年の自分を創造する。(4) 【My skills 編】 ・私は、パソコンを上手に使えているよ。 ・運転免許証を取って、車を運転しているよ。 【My job 編】 ・年俸1億円のプロ野球になっているよ。 ・ゲームのアプリのシステムエンジニアになって、100万ダウンロードを達成するよ。 ・トリマーになって、テレビで紹介されるくらい有名になっているよ。 【The another 編】 ・みんなの話をしっかり聴くことができているよ。 ・自分の意見をちゃんと伝えられるようになっているよ。	・20XX年の自分自身はどのようになっているか「skills」「jobs」「another」の3つの側面から考えることで、なりたい自分がどのような自分なのか具体的に表せるようにする。 ・3つの側面では、何ができるかだけでなく、何がどのようにできるようになるかを明確にすることで、その後の未来逆算型思考につなげられるようにする。 △Yチャート 思・判・表③ (活動の様子・タブレット)

課題	課題⑤ 創造した自分になるために！ Let's 未来逆算思考モード！！	
情報	○逆向き設計をする。（４） ・パソコンを使えるようにするにはどうしたらいいのかな。 ・年俸１億円のプロ野球選手は、どのようにしてプロ野球選手になったか調べてみるね。 ・みんなの話を聴けるようになるために、今から気を付けるね。 ・資格を取るためには大学に行く必要があるみたいだよ。 ・コミュニケーション力を高めるにはどうしたらいいのかな。	・創造した自分になるためには、どうすればいいのか先人の生き方や考え方を調べたり、インタビュー等を行ったり、これまでに会ってきた人の話を振り返ったりすることで、一人一人が２０XX年から現在までの道のりを考えられるようにする。 △ステップチャート 知・技②（活動の様子・タブレット）
情報整理	○中学生に中学校生活を聞いてみる。（２） ・中学校ではどんなことが大変ですか。 ・今のうちにしておいた方がよいことはありますか。	・３か月後の自分たちの姿を想像したり、話を聞いたりして理解することによって、進学することの意味や希望をもてるようにする。 態②（活動の様子・タブレット）
表現	・聞いてわかったことを未来予想図に書き込もう。	
課題	課題⑥ 未来の自分へ招待状を書こう！	
表現	○未来の自分へ招待状を書く。（４） ・未来はもっとデジタル化が進んでいるからGoogle スライドで招待状を書きたいな。 ・強調したいところをパワーポイントで工夫して表現したいな。 ・声の調子を変えて、自分の思いをはっきりと表現したいな。	・これまでに学習してわかったことを踏まえて、２０XX年の自分がどのように生活しているかを想像し、２０２３年の自分にあてた招待状を書けるようにする。 ・招待状の表現の仕方は、Google スライドやスクラッチ、紙媒体と子供が自分自身の未来を表現するにあたって、伝えやすいものを選択するよう助言する。 思・判・表④（成果物・活動の様子）
課題	課題⑦ ２０XX年に招待状を送ろう！	
情報整理	○招待状を披露する。（２） ・２０XX年の私は、○○をしています。 ・２０XX年のぼくは、○○を作っています。	・招待状を披露する際には、一人一人が自信をもって伝えられる場と雰囲気を学級全体で作るようにする。 態③（成果物・活動の様子）
表現	○これまでの学習を振り返る。（１） ・XX年後の自分の姿を想像することができたよ。 ・中学校に向けて、今からできることをしていきたいな。	・単元を振り返るとともに、小学校での総合的な学習の時間で何を学んだかや今後の生活にどのように生かすかを、自分の言葉で表現できるようにする。 知・技③（活動の様子・タブレット）

7 本時の学習指導（本時10／33時）

(1) 目標

6年間の成長すごろくの作成について進んで関わり、20XX年からの招待状を完成するという目標に向けて、計画を立てようとする態度を養う。

(2) 展開

学習活動	・指導上の留意点 ○評価（評価方法）	準備	時間
1 前時までの学習を確認する。	・前時までの学習内容を、それぞれのタブレット端末で振り返る。 ・2人の児童の振り返りを画面で共有し、紹介することで、これまで取り組んできた学習内容を確認する。	タブレット端末 大型モニター	5分
2 本時のめあてを確認する。	6年間の成長をすごろくにして表そう。 ～自分たちのすごろくをもっと成長させよう～ ・6年間の成長を客観的に捉えられるように、すごろくを作成することを確認する。		2分
3 本時の課題解決のための見通し（ゴールとそれに向けた学習過程）と活動内容を確認する。	・本時の見通しとして、他の班からの意見を取り入れ、よりよいすごろくを作る活動の流れを確認する。 ・他の班が作ったすごろくのよいところを認めながら、すごろくを体験するように助言する。	タブレット端末(すごろく)	5分
4 他の班のすごろくを体験する。	・勝敗を付けるのではなく、他の班にアドバイスすることを意識しながら体験するようにする。 ・自分たちの成長を認め合える雰囲気を取り組めるようにする。		10分
5 他の班のすごろくについて話し合う。	・「共感したこと」「改善点」「成長の共有」の3つの観点で話し合い、更に成長を実感できるすごろくになるようなアドバイスができるようにする。	タブレット端末(アドバイスシート)	10分
6 すごろくをパワーアップさせる。	・他の班からのアドバイスをもとに、自分たちのすごろくの「何を」「どのように」成長させるかを視点に話し合う。 ・話し合いの結果を基に、すごろくを修正する。 ○6年間の成長すごろくの作成について進んで関わり、20XX年からの招待状を完成するという目標に向けて、計画を立てようとしている。（活動の様子・タブレット） 【主体的に学習に取り組む態度①】	タブレット端末(パワーアップシート)	8分
7 本時のまとめと振り返りをする。	・ワークシートを基に、振り返られるようにする。 ・自分自身や同じ班、他の班のメンバーの成長を認め合えたか確かめるようにする。 ・次時の予告を行う。	タブレット端末(振り返りシート)	5分

8 板書計画

自分を見つめて
～2023年発 20XX年の自分からの招待状～



お互いの頑張りを認め合おう！

めあて 6年間の成長をすごろくにして表そう。
～自分たちのすごろくをもっと成長させよう！～

すごろくを体験するときの約束

- ①成長は人それぞれ！
- ②思い出も人それぞれ！
- ③大変なことも人それぞれ！
- ④自分の成長も思い出も人の成長も思い出の大切にしよう！
- ⑤競争ではない！
- ⑥みんなの意見を取り入れて、世界で一つだけの卒業アルバムクラスページにしよう。

振り返り

お互いの頑張ったことや、できるようになったことを認め合って、すごろくを完成させることができた。



イラストの引用 「いらすとや」

9 ICT活用計画（資料）

アドバイスシート

見た目やデザインではなく、成長したことや思い出などの中身に注目して書こう。

P:Plus わかる！ 共感したこと	M:Minus もっとよくなる！ 改善点	I:Interesting 他にもこんな成長あるよ！ 成長の共有

自分たちのすごろくも成長させよう。

何を	どのように

他の班のすごろくについて、PMIチャートを活用し、3つの観点でまとめることで、児童が意見を書きやすくする。

3つの観点をもとにして考えさせることで、自分の班のすごろくの何をどのようにすればよりよくなるのか、改善点を出しやすくする。